



しずおかの環境

～令和4年版環境白書（概要版）～



静岡県

〈表紙〉

令和４年度静岡県さくら写真コンクール「富士山と桜」部門準特選
「春の訪れ」

撮影場所：沼津市井田

この環境白書は静岡県環境基本条例第８条に基づき、環境の保全及び創造に関する施策の実施状況等を明らかにするため、毎年発行しており、主に令和３年度の実施状況等をまとめたものです。

令和4年版環境白書 目次

トピックス

脱炭素社会の構築	1
循環型社会の構築	3
良好な生活環境の確保	4
自然共生社会の構築	5
環境と調和した社会の基盤づくり	9

第1章 静岡県環境の現状と施策の実施状況

第1節 脱炭素社会の構築	11
第2節 循環型社会の構築	13
第3節 良好な生活環境の確保	15
第4節 自然共生社会の構築	17
第5節 環境と調和した社会の基盤づくり	19

第2章 静岡県環境基本計画の進捗状況

1 静岡県環境基本計画の現状	21
----------------	----



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す、国際社会全体の開発目標です。環境・経済・社会をめぐる課題について、17のゴールと169のターゲットが示されています。

SDGs の 17 のゴール

目標 1（貧困）	地球上のあらゆる形の貧困をなくそう。
目標 2（飢餓）	飢えをなくし、誰もが栄養のある食糧を十分に手に入れられるよう地球の環境を守り続けながら農業を進めよう。
目標 3（保健）	誰もが健康で幸せな生活を送れるようにしよう。
目標 4（教育）	誰もが公平に、良い教育を受けられるように、また一生に渡って学習できる機会を広めよう。
目標 5（ジェンダー）	男女平等を実現し、全ての女性と女の子の能力を伸ばし可能性を広げよう。
目標 6（水・衛生）	誰もが安全な水とトイレを利用できるようにし、自分たちでずっと管理していけるようにしよう。
目標 7（エネルギー）	全ての人が、安くて安全で現代的なエネルギーをずっと利用できるようにしよう。
目標 8（経済成長と雇用）	みんなの生活を良くする安定した経済成長を進め、誰もが人間らしく生産的な仕事ができる社会を作ろう。
目標 9（インフラ、イノベーション）	災害に強いインフラを整え、新しい技術を開発し、みんなに役立つ安定した産業化を進めよう。
目標 10（不平等）	世界中から不平等を減らそう。
目標 11（持続可能な都市）	誰もがずっと安全に暮らせて災害にも強いまちを作ろう。
目標 12（持続可能な生産と消費）	生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守れるよう、責任ある行動をとろう。
目標 13（気候変動）	気候変動から地球を守るために、今すぐ行動を起こそう。
目標 14（海洋資源）	海の資源を守り、大切に使おう。
目標 15（陸上資源）	陸の豊かさを守り、砂漠化を防いで多様な生物が生きられるように大切に使おう。
目標 16（平和）	平和で誰もが受け入れられ、全ての人が法や制度で守られる社会を作ろう。
目標 17（実施手段）	世界の全ての人がみんなで協力し合い、これらの目標を達成しよう。

出典：公益財団法人日本ユニセフ協会HP



再生可能エネルギー由来 100%電気の普及



県では、脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの普及拡大を図るため、県有施設における再生可能エネルギー由来 100%電気の導入を進めています。

令和3年度は、富士山世界遺産センター、ふじのくに地球環境史ミュージアム、ふじのくに茶の都ミュージアムの県有3施設で再エネ 100%電気を調達しました。この取組による二酸化炭素排出量の削減効果は 787 t-CO₂ で、一般家庭約 260 世帯の年間排出量に相当します。

また、令和3年11月に再エネ 100%電気の普及促進のアイコンとなる「再生可能エネルギー100%ふじっぴー」を作成し、再エネ 100%電気を導入した県有施設や企業のPRに活用しています。



再エネ 100%ふじっぴー



再エネ 100%電気導入施設の様子

県立浜松城北工業高等学校が脱炭素チャレンジカップ 2022 文部科学大臣賞受賞！



県立浜松城北工業高等学校は、教育目標に「地球にやさしいエンジニアの育成」を掲げ、30年以上にわたり環境教育に取り組んでいます。その中心となる環境部の「地球にやさしいエンジニアを目指し共感の輪を拓ける環境教育活動」の発表が、脱炭素チャレンジカップ 2022 で文部科学大臣賞を受賞しました。

地域の植生を生かした「城北の森」の手入れや地域の森づくり、リサイクルステーションの設置、地域の自然を守る環境ボランティア活動やエコツアーなどの社会体験活動の実施、市内の高校生や地域住民との連携、地域の子供達を対象とした城北ジュニアエコスクールの実施など、幅広い年代や組織と協力して、多岐にわたる活動を実施しています。

また、環境ボランティア活動に年間 35 時間以上参加した生徒には、卒業単位として 1 単位を認定しています。

地域の森づくり
(浜松市中区の椎木谷)植樹活動
(浜松市南区の遠州灘防潮堤)



省エネ住宅連続講習会「環境と健康を考えたこれからの家づくり」を開催！



静岡県住宅振興協議会では、県民の皆様を対象として省エネ住宅の概要やメリットなどを解説する「省エネ住宅連続講習会」を実施しています。

令和3年度は、「環境と健康を考えたこれからの家づくり」をテーマに、建築家丸谷博男先生を講師にお招きし、全3回の講習会を行いました。SDGsと住まいの関係性から、住宅の換気に関することや木材の利用まで、幅広い視点から省エネ住宅についてお話いただきました。

新型コロナウイルスの影響により、対面で実施できたのは1回のみとなりましたが、多くの方にご参加いただき、とても充実した講習会となりました。



建築家 丸谷博男先生による講演



web 開催の様子

気候変動影響への適応に関する普及・啓発



地球温暖化による気候変動の影響は既に現れ始めており、今後、大幅な温室効果ガスの削減が実施されても一定程度の気温上昇は避けられないことから、気候変動影響への適応に関する普及・啓発を実施しています。

令和3年度は、気候変動の適応に関する体験型展示ツールを作成し、県内の商業施設で啓発活動を実施しました。

また、身近な気候変動の影響とその適応策をもとに作成したカードゲーム「ふじのくに気候変動適応アクションカード」を使い、中高生や大学生、教員を対象としたワークショップを開催して気候変動適応についての理解を深めていただきました。



体験型展示の様子



カードゲーム

地球温暖化防止活動知事褒賞



県では、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人または団体に対し、その功績を称えるため、静岡県地球温暖化防止条例に基づき知事表彰を行っています。

令和3年度は、温室効果ガス排出削減対策部門として、排水処理施設での高効率装置導入と効率的な運用の開発により大幅な削減を達成したスズキ（株）相良工場と、ソーラーパークの設置や継続した省エネ活動を実施した池戸電気（株）を表彰しました。また、地球温暖化防止普及・啓発部門として、学生と地域住民が楽しんで継続しやすい活動を展開した学校法人中野学園オイスカ高等学校と、施主が採用しやすいZEBの創出及びZEBの普及啓発を展開した須山建設（株）を表彰しました。



表彰式の様子



海洋プラスチックごみ防止「6 R県民運動」として 山梨県、富士市と合同で海岸清掃を実施



海洋プラスチックごみは、毎年 800 万トンも世界の海へ流出していると推計されており、発生抑制と流出を防止するため、令和元年度から本県独自の「6 R 県民運動」（従前の 3 R に Refuse（断る）、Return（店頭回収の利用）、Recover（清掃する）を加えた 6 つの R）を展開しています。

令和 3 年度は、富士市や NPO の協力を得て、富士市内の海岸で県主催の清掃イベントを 10 月 30 日に開催し、約 200 人に参加いただきました。

海洋プラスチックごみの 8 割は内陸部で発生したものが川などを經由して海に流出したものとされていることから、富士川上流域にあたる山梨県とも連携し、合同で実施しました。



引き続き 6 つの R を実践してもらえるよう啓発に取り組んでいきます。HP は [こちら](#)



海岸清掃イベントを富士マリ
ンブル付近の海岸で実施



富士市、NPO のほか
山梨県も参加

多様な主体と連携して食品ロス削減を啓発



県では、一般廃棄物の削減を目指して、県民が日常的に関わる「食」に着目し、家庭や外食店での食品ロス削減の啓発に取り組んでいます。

令和 3 年度は、小中学生を対象とした出前講座を実施し、6 つの学校において食品ロスの現状とその削減に向けた取組について説明を行いました。

また、県内のコンビニエンスストアと協力し、商品棚の手前にある販売期限が近い商品を積極的に選ぶ「手前取りキャンペーン」を実施し、ポスターやPOP（店頭販促物）を 750 店舗で掲示しました。

日々の食生活や買い物の際にも食品ロス削減につながる取組を意識して実践してもらえるよう、今後も啓発を続けていきます。



HP は [こちら](#) 手前取りキャンペーンのポスター



小中学生を対象とした出前講座



静岡市西ケ谷清掃工場で生成された熔融スラグが日本初の肥料本登録！



静岡市では、西ケ谷清掃工場でのごみ処理過程で生成される『熔融スラグ（焼却灰を熔融して生成した安全なガラス状固化物）』の農業用肥料としての活用を、産学官連携により研究してきました。

平成 29 年には農業用肥料仮登録、平成 31 年には J A 経済連を通じて「SK ケイカル」の商品名で肥料の販売を開始しました。その後、関係機関との度重なる協議の結果、令和 4 年 3 月に日本で初めて「肥料の品質の確保等に関する法律第 7 条」の規定に基づく農業用の肥料として本登録に至りました。

生ごみ以外の一般廃棄物からも肥料が生成できるとして、この結果が一層、循環型社会の形成に貢献していくことを期待しています。



スラグイメージ

SK ケイカル



SK ケイカル



静岡県水循環保全条例の制定 ～健全な水循環を目指して～



令和4年7月1日、静岡県水循環保全条例を施行しました。近年、地球温暖化等の気候変動や開発行為等の社会経済活動により、水循環に変化が生じ、水害の発生や生態系の変化などの問題が懸念されています。こうした中、令和3年度末に本条例を制定し、水循環が県民にもたらす恵みを将来にわたり享受できるよう、健全な水循環の保全を目指しています。

条例には、県・事業者・土地所有者・県民それぞれの責務や県が行う施策を定めており、令和4年度内に水源の保全のために特に適正な土地利用を図る必要がある「水源保全地域」を指定します。令和5年度からは、当該区域内で土地取引や開発行為を行う際に県への届出書の提出が必要となります。



県が行う施策のイメージ



ふじのくに静岡県庁チャンネル掲載の紹介動画

地下水流動量解析調査を実施し、地下水の利用可能量等を把握！



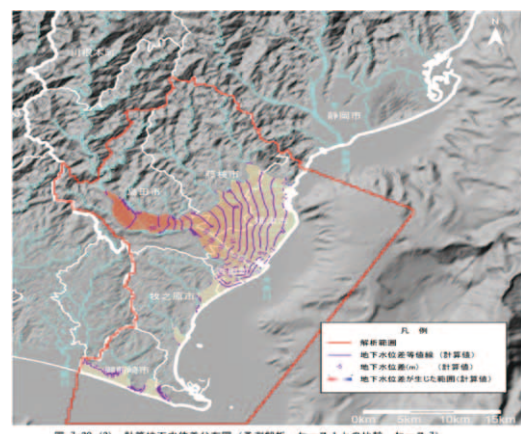
地下水は渇水の影響を受けにくく、年間を通して比較的安定して利用できる貴重な資源ですが、無限に存在するわけではなく、地下水の状態を把握し、適切に利用することが重要です。

県は、「静岡県地下水の採取に関する条例」に基づき、取水基準を設けるなど地下水の適正利用と保全を図っていますが、近年の気候変動等による地下水への影響が懸念されています。

そこで、令和3年度に気候変動等を考慮した地下水流動量解析調査を大井川及び相良・御前崎地域において実施し、地下水の利用状況と利用可能量等を把握しました。今後、西部地域と東部地域でも実施し、県内の地下水を適切に管理するための基礎資料として活用します。



令和3年度地下水流動量解析調査位置図



解析結果の一例



県立浜松南高等学校が全国野生生物保護活動発表大会環境大臣賞受賞！



県立浜松南高等学校自然科学部生物班による「カワラハンミョウを保護動物に！防潮堤を故郷の原風景に！」の活動が、令和3年度第55回全国野生生物保護活動発表大会で環境大臣賞を受賞しました。

中田島砂丘のカワラハンミョウの保護活動として、実際に飼育して保全方法を考え、浜松土木事務所と協働で防潮堤の自然環境保全活動や環境調査、除草活動などを行っています。

故郷の原風景を守りたいという気持ちで、高校生として環境保全のために何ができるのか、生徒が自ら考え、計画、活動をしています。

また、多くの人に現状を知ってもらうために、企業や自治体が行う清掃活動や科学館のイベントなどで説明するなど広報活動にも力を入れています。



環境大臣賞受賞（記念撮影）



カワラハンミョウ成虫調査（捕獲作業）

「森は海の恋人」水の循環研究会の開催

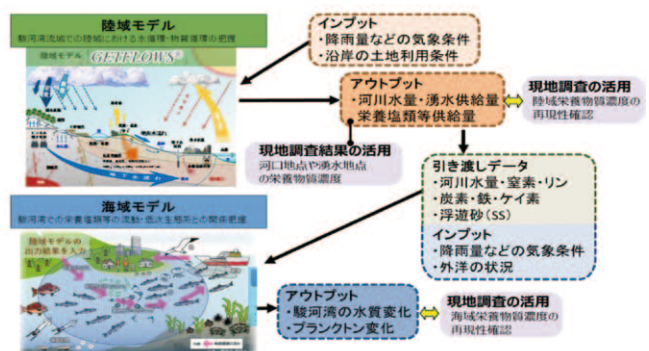


県では、令和元年度から3年度まで「森は海の恋人」水の循環研究会を設置し、南アルプスを源流とする富士川・大井川水系と駿河湾沿岸部までをケーススタディとして、陸や海的环境変化が海の生態系に与える影響の検証に取り組みました。

研究会では、森林等の陸域と駿河湾の栄養塩類の挙動等を再現するシミュレーションモデル「（愛称）：スルガベイ・シミュレータ」を構築し、分析の結果、陸域の生活排水、森林、畑地等が、駿河湾のプランクトン生産を支える栄養物質の大切な供給源であることが科学的に明らかになりました。

令和3年度はこの研究成果の普及活動の一環として、梅ヶ島地域において、用宗港の若手漁業関係者等による森づくり活動を実施しました。

今後は、駿河湾の生態系の保全とその恵みの持続的な利活用に向けた研究の促進や県民へ学習会等を通じて周知し、森・里・川・海のつながり踏まえた保全等の実践活動につなげていきます。



スルガベイ・シミュレータの構成



用宗港の若手漁業関係者等による森づくり活動

HPIはこちら





南アルプス学会の設立



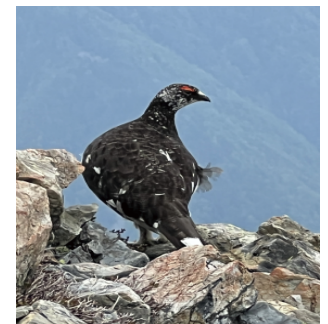
ユネスコエコパークに登録される南アルプスは、日本有数の山岳公園であり、その稜線部を中心とした核心地域には、氷河期からの遺存種をはじめ、守るべき希少な生態系が残る「世界の宝」です。

一方、南アルプスは、その急峻さや奥深さから、学術的に生態系や環境の変化を追跡し、記録することが困難な場であり、また、山間地の人口減少に伴い環境保全の担い手も不足し、地域社会を支えるなりわいそのものの存続も危ぶまれています。

県では、このような課題を克服するため、南アルプスの自然環境の保全と、それを支えてきた地域コミュニティ・文化の継承をも視野に入れた研究活動の活性化を図り、学術研究を体系化し、世界に語れる国際的な「南アルプス学」として発展に寄与するため、令和4年2月15日に「南アルプス学会」を設立しました。



天空のお花畑と主峰赤石



ライチョウが生息する世界の南限にあたる南アルプス

「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」の活動



美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会では、自主プロジェクト「静岡の海の森づくりプロジェクト」の一環として、かつて相良沖に広く繁茂していた海藻「サガラメ」の藻場を回復させる活動を支援するとともに、子供たちに、海の生き物の命を育む海の森・海藻の役割や大切さを伝える小学生向けの体験教室の開催やSNSを活用した情報発信を実施しています。

また、海洋環境や水産資源に対する関心が高まる中、海洋環境保全の取組を強化するため、令和4年3月に「静岡県美しく豊かな海保全基金」を創設しました。



しずおかの海PR大使

海の森づくり体験教室
(オンライン)

HPIはこちら